

第 62 回中国高等学校ヨット選手権大会
第 63 回全国高等学校ヨット選手権大会中国水域予選大会
SAILING INSTRUCTIONS (帆走指示書)

[NP]の表記は、艇は、他艇の規則違反に対し抗議できないことを意味する。これは、RRS60.1 (a) を変更している。

[SP]の表記は、レース委員会が審問無しに標準ペナルティーを適用することができる規則を意味する。これは RRS63.1 及び付則 A5 を変更している。レース委員会はその規則違反について抗議することもでき、その場合は審問を経てプロテスト委員会の裁量によりペナルティーが決定される。

[DP]の表記は、その規則の違反に対するペナルティーを、プロテスト委員会が裁量により失格より軽減することができることを意味する。

1 規則

本大会は「セーリング競技規則 2021-2024」(以下「RRS」)に定義された「規則」を適用する。

2 SI の変更

SI の変更は、それが発効する当日の当該クラス予告信号予定時刻の 60 分前までに掲示される。ただし、レース日程の変更は、それが発効する前日の 18:00 までに掲示される。

3 選手とのコミュニケーション

3.1. 競技者への通告は、右記 QR code の掲示板に掲示される。

3.2. [DP]緊急の場合を除き、レース中の艇は、音声やデータを送信してはならず、かつ、すべての艇が利用できない音声やデータを受信してはならない。



4 行動規範

- 4.1. [DP]競技者及び支援者は、レース委員会からの合理的な要求に応じなければならない。
- 4.2. 競技者及び支援者等は、本大会に適用される「新型コロナウイルス感染拡大防止対策」を遵守しなければならない。

5 陸上で発する信号

- 5.1. 陸上で発する信号は、研修棟入口側に設置された信号柱に掲揚する。
- 5.2. [DP][NP]音響信号 1 声と共に掲揚される D 旗は、「予告信号は、D 旗掲揚後 30 分以降に発する。」ことを意味する。艇は、この信号が発せられるまで、ハーバーを離れてはならない。
- 5.3. D 旗がクラス旗の上に掲揚された場合、当該クラスに適用される。
- 5.4. SI 6.1 に示された個別のレースに対して、「AP 旗」は、掲揚しない。予告信号予定時刻の 30 分前までに「D 旗」が掲揚されない場合、そのレースのスタートは、時間に定めなく延期されている。

6 レース日程

6.1. レース日程

| | | |
|----------|---|------------------------------|
| 6月16日(木) | 受付 開会式 監督・主将会議 | 9:30~14:30 15:00 15:30 |
| 6月17日(金) | ブリーフィング 最初のクラスの第1レース予告信号 引き続きレースを行う。 | 8:30 9:55 |
| 6月18日(土) | ブリーフィング 最初のクラスのその日最初のレース予告信号 引き続きレースを行う。 | 8:30 9:55 |
| 6月19日(日) | ブリーフィング 最初のクラスのその日最初のレース予告信号 引き続きレースを行う。 閉会式 | 8:30 9:55 15:00 |

- 6.2. 次のクラスの予告信号は最初のクラスのスタートの5分後とする。
- 6.3. 基本的に420クラス → レーザーラジアルクラスの順でスタートするが、天候その他の事情によりスタート順を入れ替える場合がある。
- 6.4. 一日の最大レース数は5レースとする。
- 6.5. 日程は天候その他の事情により、レース委員会の裁量で変更することがある。
- 6.6. 最終日には、12:00より後に予告信号を発しない。
- 6.7. 本大会は、クラス別に7レースの実施を予定する。

7 クラス旗

| 種目 | クラス旗 |
|-------------|------------------|
| 420クラス | 白色生地 of 420クラス旗 |
| レーザーラジアルクラス | 緑色生地 of レーザークラス旗 |

8 レース・エリア

- 8.1. レース・エリアの位置は、添付図1に示す通りである。
- 8.2. 添付図1どおりのレース海面にならなくても艇からの救済要求の根拠とはならない。
これは、RRS62.1(a)を変更している。

9 コース

- 9.1. 添付図2の見取り図は、各レグ間のおおよその角度、通過するマークの順序及びそれぞれのマークを通過する側を含むコースを示す。
- 9.2. 各クラスの予告信号以前に、レース委員会の信号艇に帆走するコースを表示する。
- 9.3. 各クラスの予告信号以前に、レース委員会の信号艇に最初のレグのおおよそのコンパス方位を掲示する。

10 マーク

| Marks 1, 2, 3s, 3p, 4s, 4p | Offset Mark | New Mark | スタート・ マーク | フィニッシュ・ マーク |
|-------------------------------|----------------|-------------|--------------------|--------------------|
| 黄色の 円筒形ブイ | 赤色の 球形ブイ | 黄色の 棒状ブイ | レース委員会艇 赤色の球形ブイ | レース委員会艇 黄色の球形ブイ |

11 スタート

- 11.1. スタート・ラインは、スターボードの端となるレース委員会艇のオレンジ色旗を掲げたポールと、ポートの端となるスタート・マークのコース側の間とする。
- 11.2. [DP][NP]他のレースのスタート手順の間、予告信号が発せられていない艇は、スタート・ラインから概ね 100m 以内の範囲およびコースサイドから離れていなければならない。
- 11.3. スタート信号後 4 分以内にスタートしない艇は、審問なしに「スタートしなかった (DNS)」と記録される。これは RRSA4 と A5 を変更している。
- 11.4. RRS30.4 (黒色旗規則) に以下を変更、および追加して適用する。
 - (a)セール番号は少なくとも 3 分間掲示する。セール番号を最初に掲示する時に長音が発せられる。セール番号が掲示された艇は、新しい準備信号までに SI 11.4(b)に定義されるレース・エリアを離れなければならない。それに従わない場合、その艇は審問なしに DNE と記録される。
 - (b)スタート信号前のレース・エリアは、スタート・ラインから 100m の範囲とする。スタート信号後のレース・エリアは、いずれかのフリートがレースを行っている間は、艇が通常帆走すると考えられる地点の外側 100m の範囲とする。

12 コースの次のレグの変更

レース委員会は、変更用マークを設置し、実行できれば直ぐに元のマークを除去する。その後の変更で新しいマークを置き換える場合、そのマークは元のマークで置き換える。

13 フィニッシュ

フィニッシュ・ラインはレース委員会艇の青色旗を掲揚しているポールとフィニッシュ・マークのコース側の間とする。

14 ペナルティー方式

- 14.1. RRS 付則 P 及び T を適用する。「レース後ペナルティー」を履行した艇は、得点略語「PRP」を用いて記録される。これは RRS A11 を変更している。
- 14.2. [SP][NP]SI 18.1 の出艇・帰着申告違反艇はレース委員会によりペナルティーが課せられる。ペナルティーは出艇・帰着申告それぞれ直近の 1 レースに対して科せられ STP として記録し、前後どちらかの順位+3 点を与える。

15 フィニッシュ・ウィンドウとターゲット・タイム

- 15.1. フィニッシュ・ウィンドウは、RRS28.1 に基づき、かつ RRS30.3 及び 30.4 に違反しないでスタートした先頭艇フィニッシュ後の 15 分以内とする。

- 15.2. フィニッシュ・ウィンドウまでにフィニッシュしない艇は、審問なしに「フィニッシュしなかった (DNF)」と記録される。これは RRS35、A4 および A5 を変更している。
- 15.3. スタート後およそ 30 分以内に先頭艇が最初のマークに到達しそうにない場合、レース委員会はそのレースを中止することができる。
- 15.4. ターゲット・タイムどおりにならなくても、救済要求の根拠とはならない。これは RRS62.1(a) を変更している。

16 審問要求

- 16.1. それぞれのクラスに対して、抗議締切時刻は、そのクラスのその日の最終レースに最終艇がフィニッシュした後、またはレース委員会が、本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から 60 分とする。時刻は掲示板に掲示される。
- 16.2. 抗議及び救済又は審問再開の要求は、適切な締切時間内に WEB フォームにて提出されなければならない。WEB フォームの URL は QR code の掲示板にて通知される。ただし、WEB フォームにて提出することが困難な場合には、プロテスト委員会事務局に持参して提出することができる。審問要求の様式は、研修棟にあるプロテスト委員会事務局で入手できる。
- 16.3. 審問の当事者であるか、または証人として名前があげられている競技者に通告するために、抗議締切時刻後 30 分以内に通告書を掲示する。審問は研修棟にあるプロテスト・ルームで行われ、抗議締切時間前に行われることもある。
- 16.4. レース委員会、テクニカル委員会またはプロテスト委員会による抗議を RRS61.1(b) に基づき伝えるために掲示する。
- 16.5. 標準ペナルティーを課せられた艇のリストおよび RRS42 違反に対するペナルティーを課せられた艇のリストを掲示する。
- 16.6. クラス規則、RRS50.1(b)、RRS77 の違反に対するペナルティーは、プロテスト委員会が裁量により失格より軽減する事ができる。

17 得点

- 17.1. シリーズが成立するためには、各クラスとも 1 レースを完了することを必要とする。
- 17.2. 完了したレースが 4 レース以下の場合、艇のシリーズの得点はレース得点の合計とする。
- 17.3. 完了したレースが 5 レース以上の場合、艇のシリーズの得点は、最も悪い得点を除外したレースの得点の合計とする。

18 [DP][NP]安全規定

- 18.1. [SP]出艇申告は以下のとおりとする。
出艇する艇は、所定の署名用紙に署名し、出艇しなければならない。署名用紙は 8 : 30 から研修棟に用意され、出艇申告は当該クラスの D 旗掲揚後 20 分の間に行うこと。
[SP]帰着申告は以下のとおりとする。
帰着した艇は、速やかに署名用紙に署名しなければならない。帰着申告の締切時間は、最後に終了したクラスのレース終了時刻、または AP/H 旗、AP/A 旗、N/H 旗の信号を発した時刻のどちらか遅い方から 60 分とする。ただし、レース委員会の裁量により、この時間は延長されることがある。

- 18.2. レースからリタイアする艇は、海上ではできるだけ早く運営艇に伝えるとともに、陸上では出着艇申告用紙の「リタイア報告」の欄に記入しなければならない。
- 18.3. [DP]各艇の乗員は、離岸から着岸まで、衣服または個人装備を一時的に替えたり整えたりする間を除き、競技者は個人用浮揚用具を着用していなければならない。これは RRS40 を変更している。
- 18.4. 救助を求める必要がある場合には”手のひらを広げて”振り、その意志を表わすこと。救助の必要がない場合には”こぶしを握って”振ること。
- 18.5. 必要とみなされた場合、競技者は自艇を放棄してレスキュー・ボートに乗艇するよう運営艇に命じられることがある。強制救助に対しては、艇からの救済要求の根拠とならない。これは RRS62.1(a) を変更している。
- 18.6. [DP]レーザーラジアルクラスは水上にいる間は、直径6mm以上、長さ5m以上のバウラインを搭載し、その一端はバウアイに結び付けられていなければならない。
- 18.7. マスト・トップに着脱可能な浮力体を取り付けてもよい。コンディションにより、付けたり外したりしても良い。

19 [DP][NP]乗員の交代と装備の交換

- 19.1. 420 クラスは登録された乗員についてのみ、大会期間中の乗員の交代を許可する。
- 19.2. [DP]損傷又は紛失した装備の交換は、テクニカル委員会の承認なしでは許可されない。交換の要請は、最初の妥当な機会に、口頭によりテクニカル委員会に行わなければならない。

20 艇、装備および衣類の検査

- 20.1. 420 クラスは受付時に有効な計測証明書を提示しなければならない。艇体とセール番号が一致しない場合は両方の計測証明書を提示すること。
- 20.2. 艇、装備および衣類は、クラス規則と SI に従っていることを確認するため、いつでも検査されることがある。

21 [DP]支援艇

- 21.1. 監督、コーチその他の支援者は、最初にスタートするクラスの準備信号の時刻からすべての艇がフィニッシュするかもしくはリタイアするか、またはレース委員会が延期、ゼネラル・リコールもしくは中止の信号を発するまで、艇がレースをしているエリアの外側にいなければならない。ただし、レスキュー等緊急の場合を除く。
- 21.2. 支援艇は、レース艇、レース委員会艇およびプロテスト委員会艇の妨げにならないようにする。
- 21.3. レース委員会は悪天候やその他の理由により、支援艇に救助または曳航の要請をする場合がある。支援艇は参加艇に救助が必要な状況になった場合、救助する。

22 ごみの処分

ごみは、支援艇またはレース委員会艇に渡してもよい。

23 賞

各クラスの男女それぞれ1位から3位まで表彰する。

24 クオリファイ

全国高校総体の出場資格は成績上位から以下の通りである。

男子 420 クラス 4 艇

女子 420 クラス 4 艇

男子レーザーラジアルクラス 3 艇

女子レーザーラジアルクラス 3 艇

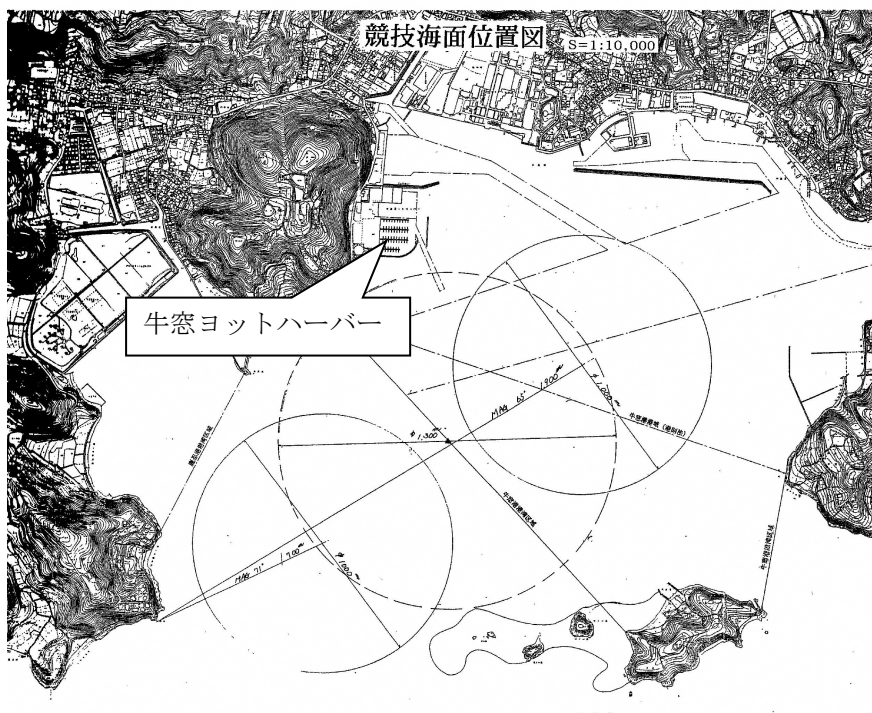
25 リスク・ステートメント

- 25.1. 大会に参加することによって、それぞれの競技者は、セーリングには内在するリスクがあり、潜在的な危険を伴う行動であることに合意し、認めることになる。これらのリスクには、強風、荒れた海、天候の突然の変化、機器の故障、艇の操船の誤り、他艇の未熟な操船術、バランスの悪い不安定な足場、疲労による傷害のリスクの増大などがある。セーリング・スポーツに固有なのは、溺死、心的外傷、低体温症、その他の原因による一生消えない重篤な傷害、死亡のリスクである。
- 25.2. 競技者は、完全に自己のリスクでレガッタに参加している。主催団体及びこれに関わる全ての団体、役員その他全ての関係者は、競技者がレガッタ前、レガッタ中またはレガッタ後において受けた物的損傷または個人の負傷もしくは死亡に対して責任を否認する。

26 保険

競技者は、有効な傷害保険と賠償保険に加入していなければならない。

【添付図1】 レース・エリア



【添付図2】 コース見取り図

